

南風原町の平和行政 どう考えるか

答 今後も必要な予算を措置する



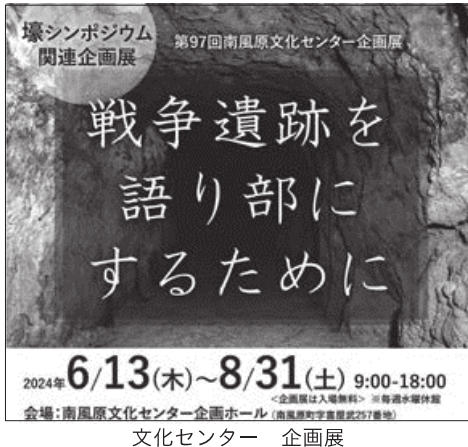
照屋 仁士 議員

問 南風原町の平和行政をどう考えるか。どのような取り組みをどう評価をしているか。

副町長 県内市町村で先駆けとなる様々な平和発信事業に取り組んでいる。

問 文化センターでの展示や企画展など、非常に評価が高い。一方で手作りの良さは否定しないが、もう少し予算措置があってもいいのではないか。

総務部長 今後も必要な予算を措置する。



問 南風原陸軍病院20号壕も南風原平和ガイドの会を含め評価が高い。一方で屋外戦跡の状況や案内看板など、施設整備面での拡充が求められる。どう取り組むか。

生涯学習文化課長 今後また研究していきたい。

問 町民から今の南風原町は平和の取り組みが弱いという声がある。厳しい指摘もある。受け止めつつ、どう見せていくのか、どう発信するのか、工夫をして頂きたい。

総務部長 お見込みのとおりである。

戦後補償で「軽便鉄道」の再建を

問 戦後補償で「軽便鉄道」の再建を。南風原町には戦前戦中、「軽便鉄道」の路線が2本走っており交通の要衝であった。戦争で失われた公共施設として、国に再建を求めてほしいがどうか。

町長 軽便鉄道の再建を国に求める考えはない。

問 鉄軌道の実現に向けても、戦後補償という考え方もあるのではないか。これから未来にそういった視点が必要ではないか。そして国から財源を措置されるべきではないか。

現在、戦争に起因する不利益を根拠に、沖振法をはじめ様々な制度化がなされている。近年では不発弾の磁気探査費用や遺骨DNA判定なども国の負担になった。だからこそ過去の軽便鉄道路線のあった市町村で連携して、今の時代に鉄軌道を再建する一つの取り組みとして考えられるのではないか。

町長 南風原町としては、広域交通ネットワークは、国・県が行うべきと考えている。

一こんな質問もしました
・南風原町にとっての県政課題は何か